

阪急沿線 ちょい駅散歩

69駅目

こうべさんのみや

神戸三宮

KOBE-SANNOMIYA

はなくま
HANAKUMA

かすがのみち
KASUGANOMICHI

幕末の開港とともに外国人居留地が整備され、早くから欧米文化を受け入れてきた神戸。スイーツやコーヒーなどの洋食にファッション…ハイカラなものに敏感に反応し、取り入れていくDNAが受け継がれる港町で、神戸発祥のあれこれを訪ね歩こう。



神戸三宮駅 所在地/神戸市中央区加納町 設置/1936年4月1日

潮風に吹かれハイカラ文化を辿る旅へ

懐かしき三宮のシンボル

円柱形の塔を合わせた外観にアーチ型の窓枠…。優美なビルの中まで線路が延びて、梅田から来たマルーン色の電車が吸い込まれていく。かつての神戸阪急ビル東館の光景だ。多くの人に親しまれながらも、阪神・淡路大震災で損壊し、入居していた百貨店や映画館は移動を余儀なくされ、震災から11か月後には現在の姿に変わった。来年で震災から20年、節目の年を迎える。



1995年の阪神・淡路大震災で被災し、惜しまれつつ解体された。



1 「にしむらアイス珈琲」
北野坂の店は、日本初の合煎製珈琲店だ。800円

2 海外移住と文化の交流センター
(旧神戸移住センター)
船での移住に慣れるため、船を模したと云われる。

3 ステーキみその神戸本店
神戸ビーフは観光客の方に人気です。厚さ2cmの鉄板

4 神戸ジャズストリート(北野坂)
港町に響くジャズの音色

5 国産初のパーマ機
神戸市立博物館蔵

6 日本初花時計。市役所企業の寄付でつくられた。
*絵柄は取材時のものです。

1 にしむら珈琲店

2 海外移住と文化の交流センター 神戸コーヒー物語

1878年に日本で初めて粉末状のコーヒーを一般に販売したのは元町の茶舗だったそう。そんな神戸の街で一目置かれる存在が「にしむら珈琲店」。ストレートコーヒーの提供に、店頭でのコーヒーの挽き売りと、あっと驚かすアイデアで、コーヒー文化を根づかせてきたバイオニアだ。また、コーヒー大国ブラジルへ約20万人もの移民を送り出してきた歴史も忘れてはならない。山手にたたく「海外移住と文化の交流センター」は、全国の移住希望者が日本で最後の時を過ごした場所。当時の資料からは新天地への期待と不安に揺れる移民たちの心の内が伝わってくる。

【北野坂にしむら珈琲店】
10:00~22:00/無休/☎078-242-2467
【海外移住と文化の交流センター 移住ミュージアム】
10:00~17:00(入館は~16:30)/月曜休(祝日の場合は開館、翌日休)/☎078-272-2362

3 ステーキみその神戸本店 肉のうまみを引き出す魔法

終戦間もない焼け野原の神戸で、みそのは誕生した。元々は喫茶店だったが、第二次世界大戦でコーヒー豆が手に入らなくなり、初代オーナーがお好み焼き屋に転向を決意。しかし、進駐軍の兵士に出していたサイドメニューの鉄板焼ステーキが評判を呼び本業になったのだとか。現在は、1人前1万円を超える特選神戸牛から1,080円のステーキランチまで幅広いメニューが人気。どれをオーダーしても目の前の鉄板でシェフが調理してくれるというからうれしい。肉の部位や厚みによって焼き加減を見極める技はさすがの一言! ちなみに、鉄板焼ステーキだけでなくガーリックライスも発祥というから驚きだ。

●ランチ11:30~14:30(土・日曜・祝日は12:00~15:00(LOは閉店の1時間前まで))、ディナー17:00~22:00(L021:30)/無休/☎078-331-2890
◎ディナーはサービス料10%要。

4 神戸ジャズストリート(北野坂) 港町に響くジャズの音色

神戸にジャズはよく似合う。それもそのはず、宝塚少女歌劇のオーケストラ出身の有志がバンドを結成、1923年に神戸で初めて演奏したことが日本のジャズの始まりと言われる。北野坂周辺には、老舗のライブハウスが軒を連ね、石畳には「KOBE JAZZ STREET」のプレートがキラリ。

5 国産パーマメント機第一号 いつの時代もお洒落は我慢!

初代パーマメント機は、大量の加熱用のクリップを頭に固定せねばならず、重さと熱さは相当のものだったらしい(見学可)。

6 花時計(神戸市役所北側) 花が彩る時計も国内初

神戸市庁舎の完成にあわせて1957年に市民の募金で誕生。四季を告げる約3,000株の花々は、年に8回も植え替えられるそう。